



そう、今日は映画館に行こう！

【うえだ子どもシネマクラブ】

学校に行きづらい、または行くのをやめたしまった子どもたちのための上映会【うえだ子どもシネマクラブ】。月2回の上映会のほか、水曜日と金曜日には映画館で過ごしていただくことができます。学校に行きづらい日は映画館へぜひお越しください！

日程：6月6日（月）
 作品：10:00～『ちむぐりさ 葉の花沖縄日記』
 13:00～『パイナップル・ツアー』
 日程：6月20日（月）
 作品：10:00～『若おかみは小学生！』
 13:00～『梅切らぬバカ』
 14:45～『絵を描く子どもたち』

こちらの上映会は登録制になっています。詳細は劇場窓口または、NPO アイダオ (080-4813-1110) までお問い合わせください。



『わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯』上映会

24歳の若さで命を落とした昭和初期の社会活動家・伊藤千代子の生涯を映画化したヒューマンドラマ『わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯』の上映会が開催されます。チケットは劇場窓口でも発売しております。

【ストーリー】1925年、日本政府は治安維持法を制定し、思想言論弾圧は激化の一途をたどった。東京女子大学に入学した千代子は大学内の社会科学研究会結成に参加し、科学的社会主義の理論を学ぶ。故郷・長野で製糸工場の大争議を通じて労働者の浅野晃と知り合った千代子は彼と結婚し、共に大争議を支援するが、1928年に大弾圧が行われ、千代子も検挙・投獄されてしまう。獄中のリーダーとして戦争に反対し志を貫く千代子。

日程：6月4日（日）
 【昼の部】15時～【夜の部】18時～
 料金：大人1,000円、大学生以下500円

問合せ：「伊藤千代子の生涯」制作・上映小更増実行委員会 090-2652-1152（大石）



2022 夏の陣 漫談 & 落語 寄席

立川談慶 & ねづっち どちらも整います

言わずと知れた立川談慶師匠の落語と「整いました」でお馴染みのねづっちによる漫談で、楽しいひとときをお過ごしくださいませ。開口一番は、ハローちいちゃんの紙芝居。今回は、天岩戸（あまのいわと）の神話を題材に、紙芝居制作者：北澤慎一郎さんが手がけた作品を読み聞かせします。

ご入場の際、「マスク着用、検温、手指消毒」にご協力ください。

公演日：2022年6月12日（日）
 時間：開場14:30 / 開演15:00
 料金：¥4,000（当日500円増）

全席自由

【チケット発売 お問い合わせ先】
 上田映劇窓口にて前売り券販売中。



藤原さくら 弾き語りツアー 2022-2023 "heartbeat"

藤原さくら約2年半ぶりの全国ツアー「藤原さくら 弾き語りツアー 2022-2023 "heartbeat"」が当館にて開催決定！！公演詳細は下記の通りです。

公演日：2022年6月24日（金）
 時間：開場18:00 / 開演19:00
 料金：一般¥4,500（税込）
 学割¥4,000（税込）
 座席：自由席（整理番号順入場）

▶チケット詳細・ご購入方法・注意事項などは、下記、特設サイトからご確認ください。



【特設サイト】
fujiiwarasakura.com/cam/heartbeat

EIGEKI COLUMN

第55回

レジャーのはなし



今年は年明けから新しい仕事の準備、家探し、永遠に続くかと思われた荷造り、いまだに終わっていない荷解きなど、何やら慌ただしかった。ふと気が付いたら心と体に、要領の悪い自分への罪悪感と若干の疲れが鎮座ましましていた。

と言うわけで、レジャーに行くことにした。私は普段あまりレジャーしない。長い貧乏生活の中でレジャーするという感覚がアンインストールされたらしく、お金と時間に余裕があったらそそくさと映画館の暗闇へと向かう習慣がついていた。だからずいぶん久しぶりの気がした。行き先は淡路島、半日帰りコース。

高速バスに1時間ゆられ、玉ねぎ畑の間を通過、淡路島の端っこまで行った。あんなにたくさん玉ねぎが生えているのを初めて見た。前の日の新聞のコラムに「玉ねぎの値段が高騰している」と書かれていたので、複雑な気持ちになった。目的地へ到達すると、まず廃墟のような古い造船所が目に入って、テンションが上がった。お昼は食堂のおばさんに勧められて「サクラマス」を食べた。座った席の窓辺に母の日のカーネーションが飾ってあって、おばさんは「お母さんというか、おばあさんやけどね」と自虐的な笑いを取ってきた。西の人と話すのは気持ちが良い。

最後に「うずしおクルーズ」に乗った。その日は「小うずの日」で、チケット売り場のお兄さんも船内アナウンスのお姉さんも申し訳なさそうにしていた。しかし船は最高だったし、渦潮は小さいなりにちゃんと巻いていた。

船から降りて、夕日の中に停泊する船とそこで働く人々を眺めた。この人たちは先月の知床での事故以来、複雑な気持ちで働いていたのだろうと思った。現地で目にしてみないと感じられないことがたくさんある。

tsuruoka keiko
鶴岡 慧子 映画監督/脚本家

上田市出身。神戸芸術工科大学映像表現学科助教。当劇場理事。初長編作品『くじらのまち』が、PFFアワード2012においてグランプリ & ジュエルストーン賞をW受賞、その後世界各国の映画祭にて上映される。2015年『過ぐる日のやまねこ』で劇場デビュー。最新作は西加奈子の同名小説が原作の『まく子』。信濃毎日新聞「シネマ魅どころ」に映画評を隔週連載中。

第37回

ちょっとひと息



先日、宝塚歌劇団、元花組トップの高汐巴さんの芸能生活50周年記念コンサートに出演致しました。出演者は、主演の高汐さん含めて5人の宝塚の卒業生。高汐さんの一期後輩の末沙のえるさん、高汐さんの相手役娘役トップの秋篠美帆さん、同じ花組出身の福麻むつ美さん、最下級生の私でした。

高汐さんの芸能生活50年を振り返り、これまでの思い出の作品の歌、ダンスかと思いきや、芝居、ショー全て新作。合わせて3時間の大作になりました。演出は、宝塚歌劇団出身の三木章雄さん。高汐さんとは、50年の長いお付き合いで、今回は、高汐さんの魅力を全面に引き出した素晴らしい、芝居とショーでした。

客席で、ご覧になった皆様は、新作で攻めた高汐さんに驚かれたと思います。

毎日稽古は夜遅くまでかかりましたが、久しぶりに宝塚の下級生にもどり、程よい緊張感のなか、皆様にかわいがられ楽しむことが出来ました。厳しさは全く無く、終始笑いの絶えない稽古場で、皆さんで必死にセリフやダンスを覚え、励まし合いました。高汐さんは、毎日私達の身体を気遣ってくださいました。

休憩時間などに先輩方の話しを伺うと、自分の未熟さを痛感する話ばかり。様々な経験をされて成長し続けている先輩方の背中を見て、私も日々精進しなければと、思い知らされます。

本番は、毎公演新鮮で、音楽監督の栗山梢さんが作曲された歌や、振付の、はやせ翔馬さんのダンスを、5人で精一杯、身体に鞭を打って（笑）演じました。客席の皆様からの温かな拍手を受けることができたとき、長丁場の稽古が身を結んだと、とても感激しました。千秋楽まで沢山学ばせて頂いた貴重な公演でした。宝塚の繋がりで世代を超えた出会いに感謝です。

tsukikage hitomi
月影 瞳 元宝塚歌劇団・娘役トップスター

長野県上田市出身。上田市観光大使。当劇場理事。1990年「ベルサイユのばら」で初舞台。入団2年目で新人公演、初ヒロインを演じる。1997年「誠の群像」で星組トップ娘役となる。その後雪組に組替えし引き続きトップ娘役としてミュージカルやショーなどで活躍する。2002年に「愛燃える/Rose Garden」で退団。退団後は舞台、コンサートや映画など、活躍の場を広げている。

vol.52

気持ちは $P \leq D$



ビーよりディー

監督志望の僕がプロデューサーになって、フジテレビから共同テレビ、そしてアットムービーへと独立して3年経った頃だった。フジテレビ時代の上司にあたる大多亮プロデューサーから久しぶりに電話が来た。ちょうど『THE3名様』の撮影中だった。「ひさしぶり。ちょっと聞きたいんだけど、3名様とか言うやつ、お前がやってるの?」「はい。今、撮ってますよ」「そうなの?で、なんかその3名様のDVDがめっちゃ売れてるらしいじゃない?」「やっとなんかにも届きました?」「ちょっと今度久しぶりに飯でも食わない?」

撮影が終わり、数日後に銀座のレストランに呼び出され、久しぶりに大多節のトークに刺激を貰って元気になりかけた時、大多さんがこう言った。「3名様みたいなノリのドラマ、フジでやってくれよ」「え?」「ああいう感じのものフジには無いからさ」と。僕は嬉しかった。独立してフジサンケイグループを去った僕には、自分の中で決めていたことがある。映画をやりたいと独立したわけだから、3年間は歯を食いしばって映画をやる。テレビドラマに戻るのはいくつかの映画を作ってからにする。と。結果、作った映画はミニシアター系の小さな作品ばかりだったが話題になったものもあったし、DVDストレートの作品もあったりしたが、すぐにテレビには戻らずに3年が経っていた。戻ってもいい時期かな?と心の中で呟いて「やります、やらせて下さい!」と返事していた。『THE3名様』の編集室で福田雄一監督にそのことをすぐに相談した。僕と福田さんは編集室でのご飯の時間にいつもバカな企画の話をしてきた。DVDでしか見られない作品を作っていた僕たちにとってフジテレビでの連続ドラマの企画を考えるのは本当に至福の時間だった。やがて、福田さんがこう言った。「放送開始5分で解決している事件を放送時間ギリギリまで持たせる探偵の話って、どうですか?」と。僕は直感的に「それ、面白い!」と叫んでいた。福田さんの興味のある原作ものと併せて提案したら、あっさり原作ものの企画は次のクールの局制作のチームに取られた。正直、頭にきた僕は「だったらもう一つの企画をやらせて下さい!」と企画書を叩き付けていた。それが、堂本剛主演の『33分探偵』の始まりだった。(つづく)

moriya takeshi
森谷 雄 プロデューサー / 映画監督

愛知県生まれ。株式会社アットムービー代表。当劇場理事。「天体観測」(フジテレビ)、「ザ・クイズショウ」(日本テレビ)、「深夜食堂」(毎日放送)などのドラマをプロデュース。映画作品は『しあわせのパン』(三島有紀子監督)、『曇天に笑う』(本広克行監督)ほか多数。監督作品に『サムライフ』がある。最新作は『ミッドナイトスワン』(内田英治監督)。